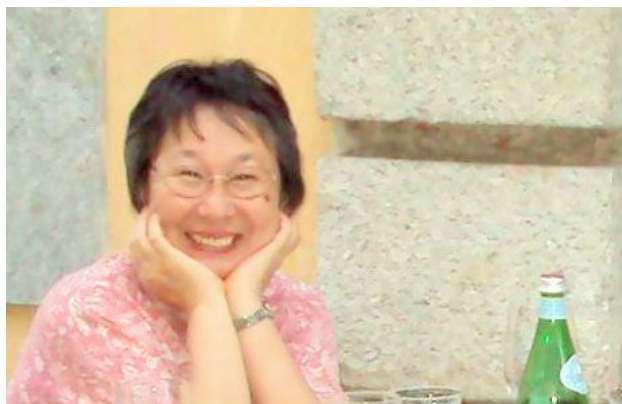


仕事楽しい人File. 11 : 芦塚 英子さん (IEトレーナー)



◆芦塚先生の教育への取り組み

芦塚先生がIEトレーナーになったのは、2001年から。

保健室に閉じこもる不登校がちな女子生徒に、IEプログラムを実施したところ、この生徒は、「できた～」と声を上げ、その後の音楽の授業に出席しました。

芦塚先生は、英語の先生です。

母親から、「手に職を身につけなさい」と言われたのがきっかけでした。

英語の先生になった時に、隣のクラスの難聴のろう者の女子生徒が気になりました。

すると、女子生徒の担任の先生から、英語の個人レッスンを依頼されました。

芦塚先生は、英語よりも日本語を話せない方が社会生活に支障を来すと考え、日本語の個人レッスンを始めました。

レッスンをすると、言葉を発する上で必要な、息づかいや舌の動かし方が出来ていないことに気づきました。

そこで、“笹の葉さらさら”や“月が出た出た”の歌で、“さ”や“つ”の息づかい、舌づかいを教えました。

時には、自分の頬に手を当てさせて、口の周りの動きを感じさせたり、生徒の口の中に手を入れて舌を動かす訓練も試みました。

また、言葉の基礎は文章力を鍛えることで高まるので、ドリトル先生の本を読ませ、作文も書かせました。

2年ほどこのようなレッスンを続けると、この女子生徒は話せるようになりました。

そして、高校を卒業すると市役所に就職しました。

中学1年から高校3年までの6年間、この生徒との関わりが、芦塚先生の教育の原点になっています。

今、芦塚先生は、英語教諭の第一線を退き、IEトレーナーとして、ADHD（注意欠

陥・多動性障害)、軽度発達障害、ダウン症の子どもたちの認知機能強化支援をしています。

I E (Instrumental Enrichment) とは、識別、比較、類推思考、論理的乗法などの認知操作に必要な機能を育て、また、不全を示す機能を修正するために構成された系統的な一連の課題で成り立っています。

(詳しくは、こちらをご覧ください。 <http://www.hopedu.com/report.pdf>)

芦塚先生が I E を知ったのは、“Don't Accept Me As I Am” (「このままでいい」なんていわないで-ダウン症をはじめとする発達遅延者の認知能力強化に向けて-) の翻訳に携わったからでした。

この本には、発達遅延者の認知機能が強化された、奇跡と思えるような実例が紹介されており、芦塚先生は、この事実を自分の目で確かめたいという衝動にかられました。

2001年にカナダでこのワークショップが開催されていることを知り、この強い思いを胸にしてカナダに渡航しました。

その後も、アメリカ、イギリス、オランダ、フランス、イスラエルなど、毎年、各国で開催される I E の国際ワークショップに参加し、ノウハウの交流とスキルの向上に努め、日本の I E トレーナーの第一人者として活躍されています。

#### ◆ 芦塚先生が大切にしているキーワード

##### 自立

自分で考え行動する自由は、万人に与えられているものです。

#### ◆ 芦塚先生のコツコツ (継続していること)

##### アートとの関係の維持

オペラ歌手を目指した時もあり、俳句を作ったり、アートと親しんでいます。

##### 教師生活

小学校5年の時に先生になりたいと思い、大学卒業後、これまで教師を貫いています。

#### ◆ 芦塚先生のパワー○○○

##### 子供の顔を見る

子供の顔を見ると、自動的にやる気スイッチが入ります。

##### 音楽を聞く

取材中にナポリ民謡を聞かせていただきました。

#### ◆ 芦塚先生の愛用グッズ

##### 教材を作るためのパソコン

補助教材を作り教育に使用し、時にはお母さんにプレゼントしています。

◆平堀が感じ取った芦塚先生の信念

私が芦塚先生とお会いさせていただいたのは、4年前でした。

今回ご案内した、IEプログラムに興味を持ち、IE-I、IE-ベイスック、IE-II、IE-IIIのトレーナー研修を受講させていただきました。

このプログラムに興味を持たれた方は、先にご紹介した“Don't Accept Me As I Am”（「このままでいい」なんていわないで-ダウン症をはじめとする発達遅延者の認知能力強化に向けて-）を、是非、ご一読ください。

私が抱く芦塚先生の印象ですが、「子どもの純真さを持ち、好奇心に満ちた、話好きなお姉さん」です。

芦塚先生と勉強すると、とにかく楽しいのです。

芦塚先生と接する子どもたちの表情からも、同じようにくみ取れます。

歌ったり、踊ったり、動物の動きを真似たり、泣いたり、笑ったり。

芦塚先生のこれらのしぐさは、演じたものではなく、子どもと同じ純粋さによるものなので、子どもの心に自然に入れるのでしょう。

特筆すべきは、「全ての人間は変容可能である」という信念を貫き、子どもたちを支援していることです。

発達遅延者の子どもに関わっている人たちが口を揃えて主張するのは、「この子たちは、他の子どもたちに比べて発達に時間がかかります。しかし、義務教育を受けられる期間は、健常者と同じ9年間。それを終えると、自立支援と称して、障害者向けにと枠にはめられた単純作業の職業訓練プログラムを受けさせられる」という現実です。

要するに、「あなたには障害があるから、難しい仕事はやらなくていいよ」という社会構造になっているのです。

芦塚先生に代表される、発達遅延者に関わるご家族や支援者のみなさんは、「全ての人間は変容可能である」と確信し、プログラムに取り組んでいます。

ヘレンケラーの家庭教師を務めたサリバン先生のように。

ヘレンケラーとサリバン先生を描いた映画“奇跡の人”の解説サイトをご参照ください。

YOU TUBE 映像（5分1秒）と解説

<http://homepage2.nifty.com/e-tedukuri/THE%20MIRACLE%20WORKER.htm>

サリバン先生は

失敗したら初めからやり直せばいいの。そのたびにあなたは強くなれるのだから。という名言を残しています。

以前、大手メーカーの現場班長から次のような話を伺いました。

「人の能力の満点が10としたら、8とか9ある人は、ほっておいても自分で勉強して、伸びていこう。今の時代は、そんな人たちがばかりが目されるけど、それでいいのだろうか。以前は、能力が1しかない人を、叱ったり、褒めたり、なだめたりしながら、何とか1.5の力にしようと、リーダーは心血を注いだものだ。そんな人間が2とか3の力になってくると、その人は、育ててくれたリーダーを、親父とか兄貴と呼ぶようになる。企業力の差って、このように1や2の人材に力を付けさせられるかどうかで決まっていたはずだし、それが幸之助さんの教えだった。最近、そんな気概が失われている気がする」

芦塚先生は、幸之助さんが実践した人材教育と同様のスタンスで子どもたちと接しています。

人間は、企業にとっても、社会にとっても宝です。

まさに、人材を人財と見なし、能力開発の支援をする根源的な意義を、芦塚先生には教えていただきました。

#### ◆芦塚先生のプロフィール

職業： I E トレーナー

所属： フォイヤーシュタイン・ラーニング・センター (<http://www.hopedu.com/>)

#### ◆障害児の学校教諭ってどんな仕事

(13歳からのハローワーク公式サイトに掲載されている村上龍氏の解説を抜粋しました)

特殊教育学校でハンディキャップを持つ子供たちを教える。職場には目の不自由な子供たちのための盲学校、耳の不自由な子供たちのためのろう学校、それ以外の障害児のための養護学校、比較的障害の軽い子どもたちのための特殊学級などがある。精神的にも肉体的にもとてもたいへんな仕事だが、これまでできなかったことがある日できるようになるなど、子供たちの変化や成長は大きく、その分やりがいは十分だ。ただし、ちょっとしたことで負けないねばり強さと、おおらかで明るい性格が必要。また、普通の教職よりも給与が高めに設定されていることもメリットである。養護学校の先生になるには、まず普通免許状を取得し、さらに養護学校教諭普通免許状を取る。そのためには、特殊教育教員養成課程のある大学を卒業するのがもっとも早道だ。

#### ◆ I E トレーナーに求められる能力

確信：全ての人間が変容できるとの揺るぎない信念

分析力：変容プログラムを組むための観察力・分析力

伝達力：生徒の目線にあわせて、咀嚼説明する能力

創意工夫：プログラムを固定させずに、あらゆる手法を模索し駆使する力

人間尊重：万人を平等・対等に愛する力